

本を選ぶ



高校図書館版



NO.77

2024 年 (令和6年) 5 月 20 日
<https://www.las2005.com>

●発行/ライブラリー・アド・サービス

〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

「謎の固定観念」から、“意識化”へ

成田 康子

年に一度、地元大学の教職課程講義「教育制度論」にゲストスピーカーとして招かれている。依頼は「開かれた学校づくりや教職員の協働による学校経営の一環として、学校司書の仕事・実践を通じて、学校図書館の意義や学校が多様な教職員の活動によって成り立っていることを学生たちに伝えてほしい」という意図である。学生は大半が2年生で、人数は例年120人ほど。全国から集まって来ている。講義を約50分、その後質疑を20分程度、学生の感想文執筆が10分という流れ。

昨年度は「『学校図書館』という可能性」と題して、「学校図書館法」の概要を知らせ、次に学生の「学校図書館」経験を訊ね、そして「学習指導要領第1章総則」における学校図書館の記述を取り上げる。それから高校図書館在職時の実践を紹介していく。

後日届けられた感想文は読み応えがあった。「今まで、謎の固定観念を持っていた」、「自習しかしていなかった」、「このような活動が自分の高校でもあったらよかった」等、「学校図書館法というものがあったとは知らなかった」が散見する。

希望制で所属する図書局員の活動への記述が多い。なかでも「ライブ・イン・ライブラリー」(図書館で生徒が自分の興味や関心事を話す)へ反響があ

る。「お互いに影響を与え合い、普段は接することのない人との交流も生まれたり、幅広い知識を得られたりと多くの収穫がある」「発表者は自分の話が受け入れられることの喜びを感じることができる」「先人の作り上げてきたものを書籍から学ぶことに限らず、学生同士やそこにいる人たちのもっているものを共有する場でもあった」。

「図書館から教育に働きかけられることができるというのが驚きだった」「簡単なことではないが、そのように生徒と一緒に考え、引き出すという考え方は、教育の非常に重要な考え方だと感じた」「生徒を「支える」という視点からの教育を自分では考えたことがなかった」「『生徒に押し付けない』という視点は図書館だけでなく学校活動全体において大切なもの」「図書館の活動で生徒にとって「やってみよう」ことを叶えることにより、生徒の各教科に対する動機維持・向上にもつながる」等、教職課程の学生ならではの意見がある。

「本を通じた教育の場になることを知った」「生徒の主体性を育むような自由の在り方を自分で考えてみたい」「図書館の活動と静かさの両立はどのように実現していたのか気になった」には、思わず直接話したい気持ちになる。

「教師を志すようになった後もその存在を特に意識することがなかった学校の図書室について詳しく聞くことができ、新鮮で面白かった」「普通に行ってみたいです」「僕の理想の図書館は音楽がかかっている図書館です」。それぞれの心が動いている。(なりた やすこ：大学非常勤講師・札幌南高校元学校司書)

熱い思いを地方から

～図書館をとりまく状況の変化と地方司書の奮闘～

吉良 靖代

さかのぼること半年前の 11 月初旬、私たち大分県の司書は県外先進校視察のために関東を訪れました。コロナ禍もあり、久しぶりに訪れた東京。驚いたのは、駅や街中がすでにクリスマスムード一色に包まれていたことです。「えっ？もうクリスマスなの！？」と戸惑いを感じつつ、人の多さ、おびただしい情報量に目を奪われながら早足で視察先の学校へと向かいました。思えば、この時から「ギャップ」が始まっていたのです。

司書の「昔」→「今」

大分県には県立学校が 55 校あり、司書は全日制の高校と一部の支援学校に配置されています。しかし採用形態やキャリアは様々です。正規司書は「学校司書採用試験で採用された司書」、「県立図書館採用で人事異動により学校に勤務する司書」「県立図書館と県立学校共通の採用試験で採用になった司書」がいます。そして司書全体の半数以上を占める「臨時職員」も、学校勤務が初めての方から 10 年以上継続の方まで様々です。

1988 年、私は「学校司書」として採用されました。新採用で勤務した学校は、国東半島の北端に位置する、のどかな雰囲気のある学校でした。生徒数の減少で数年前に閉校となりましたが、その学校で司書としてスタートを切れたことが、今振り返って私にとってはよかったと感じています。

司書は学校で一人のため、直接仕事を教えてくれる人はいません。新採用の私は、右も左もわからず前任者の後をたどりながら、何とか日々を過ごしていた気がします。そんな私を助けてくれたのが、同じ地区の司書の先輩方でした。当時はまだ週休二日制ではなかったので、月に一度、土曜日の午後に新採の私のために勉強会を開いてくれました。毎回違う学校に集まり、図書館を見せてもらえたことも勉強になりました。校種によって選書やレイアウトが異なることもこの時に学びました。先輩司書の会話から、「司書って、こんな仕

事もしないといけないんだ」「出版社のカラーの違いや作家の作品に対しての評価など、ここまでの知識が必要なのだ」と、まさに司書としての心構え、基本を教えてもらった気がします。駆け出しの私は、図書館サービスや司書の専門性という点では遠く及ばず、当時の生徒に申し訳なかったと思います。

1996 年から 2011 年までの 16 年間、「学校司書」の採用試験が途絶えている間、図書館には臨時職員の司書が配置されましたが、司書は行政職のため、事務室の仕事も兼務する状況が広がっていきました。ようやく 2012 年に採用試験が再開されましたが、「司書」として県立図書館と県立学校の共通募集となりました。職務内容も「図書館事務以外のその他の事務に従事する」となり、正規司書であっても図書館専任で働けない人が出てきました。職名も変更となり「学校司書」から「司書」「主任司書」「主幹司書」と県立図書館と統一されました。現在は採用されると、県立図書館に配属され 3 年間ほど経験を積んだ後、学校に配属されるのが一般的になっています。司書が働く状況は 30 年間で私の採用時から予想もしなかった変化が起きました。

もっと学びたい！

最新の図書館学を学んだ若手の司書や豊富な知識を持った県立図書館の方との交流人事異動が行われるようになり、私は自分の知識不足、視野の狭さを実感することが多くなりました。それに加えてコロナ禍で一気に進んだ学校のデジタル化。生徒たちの学びは、電子黒板とタブレットの導入で大きく変わりました。図書館での授業も先生の「はい、タブレットを開いてください。」の第一声で始まることも普通の光景となりました。

私がこの 3 月まで勤務していた学校は、大分市の中心部にあり、普通科と理数科合わせて生徒数約 950 名、文部科学省スーパーサイエンスハイ

スクール（SSH）指定4期目の進学を主体とした高校です。図書館を活用した授業や探究活動で図書館利用は活発ですが、コロナ禍以前とは明らかに変化を感じます。

「学校図書館ガイドライン」の策定で、学校司書に求められる専門性も変化しています。司書に力量がなければ、大分県の学校図書館は取り残されてしまう。「専門職として研修が必要だ」と思うようになりました。

令和5年度に県教育委員会、県立図書館、大分県学校図書館協議会、司書代表で司書の研修体系を話し合う「司書研修企画検討会議」が始まりました。そして実現したのが冒頭の「学校図書館先進県視察」です。正規司書と臨時司書10名で埼玉県の図書館先進校2校を視察しました。臨時司書が参加できたのは異例ですが、「県立高校の生徒は、どの学校でも平等に図書館サービスを受けられるべきだ」という大前提と臨時司書さんの日頃の頑張りのおかげだと思います。

地方と都市部の隔たりに愕然

視察した学校では、司書の力量の高さに圧倒され、図書館の役割や存在意義、意識など大いに刺激を受けました。2校の視察を通して、地方と都市部の教育格差も実感しました。予算、図書館管理システム、環境、すべてにおいて大きなギャップ、隔たりを感じました。私は日頃生徒に「世界中の情報がどこからでも集められる時代。情報活用能力が大切」と伝えていますが、「地域間格差」、「情報格差」が存在することを痛感しました。どれだけインターネットを駆使しても「調べる前の段階」で経験値、知識、情報量にすでに差が生じていることを肌で感じました。

しかし、たとえ地方と都市部の学校の環境的な差は埋められなくても、司書が専門性やスキルを持って授業や探究学習を図書館としてサポートすることはできると思います。司書一人ひとりが学び続けることでその差は埋められるはずです。埼玉県は、高校司書が薦めたい本をピックアップし、ランキング形式で発表する「イチオシ本」の企画を10年以上も続けています。

司書たちの熱い思いと行動力にとっても刺激をもらいました。

図書館の予算が少なく、本が思い通りに買えなくても「生徒に本を届ける方法」を模索することが大事だとあらためて気づきました。幸い、大分県は県立図書館の学校支援が充実していて、長期貸出が可能な「団体貸出」や授業などで必要な本を予約すると週一回宅急便で届く「協力貸出」制度もあり、授業活用等において十分な資料提供が可能となりました。県立図書館との人事交流によって、県立図書館が身近となり学校図書館を支えてくれる頼もしい存在となっています。

帰県後たまたま「地方って、あんまりクリスマス盛り上がりがないよね」と、関東から移住した方の言葉を耳にし「やっぱり、地域差があるのだ」と納得しました。大分県は、学校司書採用者の高齢化が進み、次の世代への継承が課題です。視察を通して「学校図書館に司書がいる意味」「学校図書館の可能性」を伝えていかなければならない。私がこれまで先輩司書の方たちの図書館を見て感じたこと、教えてもらったことを継承し、大分の学校図書館を後退させることなく、バトンを引き継いで前に進めなければいけないと痛感しています。

都市と地方の隔たりはありますが、地方の司書は熱量で図書館を盛り上げていきたいと思っています。

朗報届く！

令和6年4月1日付けで県の規則が改正され、県立学校に勤務する全ての司書（臨時も含めて）が「図書館専任」で働ける通達が出ました。これまで粘り強く行ってきた各方面への要請と各学校での司書の実践、そして行政の理解で長年の懸案事項が解消され、県内の高校司書全員が同じ条件で働けることになりました。異動の内示を受け、残務整理をしている時に届いた朗報は涙がでるほど嬉しかったです。

今後さらに専門職としてスキルアップを図り、大分県の高校図書館充実のために頑張っていきたいと思っています。

（きら やすよ：大分県立大分上野丘高校 主幹司書）

高校生と著名講師陣が「人生」を考える

埴 花梨

「どう生きていくか」に焦点を当てた一冊

心理学、人類学、言語学、精神医学、科学、物理学……あらゆる学問の第一人者たち 18 名が、高校生に向けて自身の学問分野の入り口をガイドし、自らの経験を通して人生を考える授業。神奈川県にある桐光学園中学校・高等学校で実施されているこの訪問授業をまとめて一冊にしているのが、「高校生と考える」シリーズです。

今年刊行した最新刊は、「世界から自分を考える」「文化を読み解く」「角度をつけて社会を見る」「言葉と生きる」「過去を通して人間を知る」「他者とつながる」の全6章で構成しています。「自分とは何か」を起点に、「他者に寄り添うにはどうすればいいか」を結びに据えていて、シリーズのなかでも全編通して自分を見つめ、「どう生きていくか」という問いに焦点を当てた一冊になりました。

「高校生と考える」シリーズができるまで

本シリーズの制作は1年がかりで行います。まず、新年度が始まる4月に、1年間を通して授業を行う講師陣のリストができます。講師陣のラインナップは、この企画の発起人であり、超がつくほどの読書家である桐光学園理事長・中野先生が決めています。多岐にわたる著書を読み込んで、多感な生徒たちの刺激になる授業をしてくれそうな選りすぐりの先生方に声をかけているのです。

授業のテーマはこちらから指定することなく、基本的に講師の皆さんにお任せしているのです、それぞれの個性が滲み出ます。先生によっては、自分自身の学生時代の苦労話を語る方もいれば、専門分野の面白さを噛み砕いて伝える方、生徒に問いかけをたくさん行って考えさせる授業をする方など、さまざまです。質疑応答も含めておよそ1時間半から2時間にも及ぶひとつの授業を原稿にまとめていき、1年分を一冊にしたのがこの本になります。

コロナ禍、戦争、自分らしさ

毎年刊行していると、同じシリーズであるにもかかわらず、授業内容にその時代の空気感が反映されるのか、全体的なテーマにも社会の変化を感じられるところが興味深いです。例えば、コロナ禍が訪れ、ウクライナとロシアの戦争が勃発した2022年には、社会的な内容の多い一冊になりましたが、今回の『高校生と考える人生の進路相談』では、文化や哲学など、もう少し自分自身の内面を見つめた内容が充実していました。

例えば、本書に収録している人類学者の磯野真穂先生の授業では、多くの高校生が頭を悩ませる

〈自分らしさ〉の正体についてお話しくださしました。SMAPの「世界に一つだけの花」にある有名な歌詞の一節を引用し、「自分らしくあることって素晴らしいよね」という考え方が社会で当たり前だと思われることへの違和感を訴え、次のように説明しています。

自分らしさに内容はありません。いわば、何も入っていないバケツみたいなもので

す。内容がないがゆえに、生まれてから死ぬまでの、人間のあらゆる悩みの解決策として「自分らしさ」を提示することができるのです。それなのに、何かがわかったような気になってしまう。ここに、自分らしさの罠があります。

実は「自分らしさ」とは、その響きとは裏腹に、ある種の合意の形式そのものを指しているのではないだろうか。

つまり、自分らしく生きていと認められるためには、そのひとの振る舞いが社会に共有されるなんらかの理想を実現していて、そのひとと周囲も心地よい状態であることが必要だということです。

自分の意見を貫かなければ「自分らしく」ない。しかし「あなたらしい」と称賛されるためには



『高校生と考える 人生の進路相談』定価：1,980 円（税込）／左右社／2024 年 3 月

他人の承認が必要。これは大きな矛盾です。

体験してきたからこそその“生”の言葉たち

また、自身の経験を交えて専門の分野について伝える授業も多く収録されています。例えば、臨床心理学者の東畑開人先生は、自身の仕事を「心を見る仕事」だと言い、心理士として、次のようなエピソードを伝えています。

みなさんの心のなかにも、自分ではうまく整理できないごちゃごちゃした気持ちがあるでしょう。ぼくらはそこにピッと補助線を引く。すると、心のなかでは「学校に行きたい気持ち」と「行きたくない気持ち」のふたつがせめぎ合っているんだと見えてくる。

心理学って、基本的にはこうした補助線の引き方を学んでいるんですよ。たとえば、意識と無意識の理論を学ぶことで、みなさんの心が意識の部分と無意識の部分にわかれていることが見えるようになる。曖昧な図形をちょっと見やすくするためにいろんな補助線があって、ぼくらは心理学を学ぶことで補助線の引き方を武器として蓄えているのです。

子どもだけでなく、大人にとっても人生の道標に
私が初めてこのシリーズの担当になり、授業内

容に目を通したときのこと。最初に湧き上がった感想は「ああ、これを高校生のときに聞いていればなあ」というものでした。高校生という小さな世界の中では、ふつうは到底聞くことのできないであろう先生方の学問や経験がわかりやすく語られているのです。きっとこの授業に影響を受けて、進路を変えた人もいるはずです。桐光学園の生徒のみなさんや、この本の読者である高校生の方が心底羨ましいと思いました。

同時に、「大人になった今でも、こんなに面白いなんて!」という驚きも湧き上がってきます。人生を迷うのは大人であっても同様で、むしろある程度人生を進んできたからこそ、先生方の言葉が大いに響くのかもかもしれません。

また、学者というのは、基本的に論文や学会発表などで研究成果を伝えているので、私たちのような一般の人たちにわかる言葉で噛み砕いて語ってくれる場合は、そう多くありません。だからこそ、高校生に向けて熱量を込めて話してくれていることが大変貴重且つ心を動かされるものになっているのだと思います。

先の見えない予測不能な時代に突入している今こそ、これからの未来を生きる高校生たちにとって、この本が少しでもヒントになったら嬉しいです。

(はなわ かりん：左右社)

DMかたろぐ



源氏物語を知る事典 新装版

装丁に
漫画家 山田南平さんの
装画を採用

西沢正史 編
定価 3,300 円
(本体 3,000 円 + 税)
ISBN 978-4-490-10938-2

不朽の大作「源氏物語」のストーリー展開、人物関係、時代背景、作者像、文学作品としての影響や関係資料などまるごと理解出来る事典。探求学習・レポート作成にも役立つ1冊。



渋沢栄一を知る事典

公益財団法人 渋沢栄一記念財団 編

2024 年
新一万円札の
肖像画に

定価 3,080 円
(本体 2,800 円 + 税)
ISBN 978-4-490-10824-8

多くの企業・団体の設立・経営に関わり日本資本主義の父といわれる渋沢栄一。社会事業や民間外交にも尽くした人物像と業績をコンパクトにまとめた実業家 渋沢栄一を知る最適な入門書。

株式会社 東京堂出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-17
TEL 03-3233-3741 FAX 03-3233-3746

かがくるBOOK 科学漫画 サバイバルシリーズ〈2024年〉 新刊セット

テレビアニメ化決定!



新作「水害」「下水道1・2」「巨大地震」と、改訂版「昆虫世界1~3」「恐竜世界1・2」の新刊セット。学術的に古くなったコラムを最新情報に書き換え。更新をお願いします。

文：洪在徹ほか／絵：韓賢東／全9巻
揃定価 11,880 円 (揃本体 10,800 円 + 税 10%)
NDC369ほか／B5変型判／平均 190 頁／ISBN 978-4-02-332089-5

朝日新聞出版

ロッチの二人が悩める人々を救う
NHKEテレの人気相談番組が書籍化

『ロッチと子羊』で学ぶ 中高生のための 哲学入門



君のお悩み、
哲学プラクティスで解決します。

小川仁志/
『ロッチと子羊』NHK制作班著

A5判美装カバー/128頁/1760円



ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

JAPANESE HISTORY for High School

高校シェアNo.1の日本史教科書に
英語版が登場!



佐藤 信 五味文彦 高荻利彦 編
近藤成一
亀井ダイチ利永子
亀井ダイチ アンドリュウ 翻訳

定価3,300円(本体3,000円+税10%)

2024年3月刊行 A5判 512頁

ISBN:978-4-634-59116-5

山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

英文

詳説
日本史

郷土史 年表・資料集

阿部 猛/夏目麻史 編

朝倉書店

ISBN 978-4-254-53580-8

朝倉書店

東京都新宿区新小川町 6-29
〒162-8707 TEL03-3260-7631

『郷土史大辞典』『郷土史大系』
掲載の事項を地方別にまとめた年表
と郷土史研究に必要な資料集。
郷土史・地方史研究や、
小・中学校、高校の郷土学習に!

B5版 568頁
定価 22,000円
(本体 20,000円)

哲学って なんだらう?

哲学の基本がわかる図鑑

10歳から大人まで楽しめる
哲学の入門書

古代ギリシア哲学から
21世紀の現代思想まで、
イラストでわかりやすく解説。



定価: 2420円(税込)
978-4-487-81663-7

◀詳しい内容はこちらから



東京書籍

株式会社 三善

PENGUIN社の多読教材
PENGUIN READERS

人気の古典・フィクション・ノンフィクション洋書を
英語学習者向けにレベリングしたリーダー 全8レベル



セット販売 ① 60冊 SET A
② 60冊 SET B
税込 各¥70,400 (本体各¥64,000)



Miyoshi

〒167-0032 東京都杉並区天沼 2-2-3
TEL:03-3398-9163 FAX:03-3398-9170

生活・健康・栄養図書総目録

最新版 2024 A5判/199頁/頒価本体286円+税

◆2023年11月現在刊行されているものと、近刊予定のもの
と合わせて100社の約2,400点を紹介。

◆分類は、健康・栄養系の総記、栄養、疾病と食事療法、
栄養に関する基礎医学、保健・衛生、健康、食品、調理、
料理、生活系の総記、生活・家政学一般、家族の生活、
保育・幼児教育、福祉、生活環境、衣生活、住生活、家庭
科教育、両方の系統にまたがるもの、関連雑誌の20項目に
改訂し、さらに各専門項目に細分化して、適書選択の便を
図っております。

◆各書目ISBNコードを表示しました。

◆著者・書名索引並びに目録掲載出版社名簿を掲載。

家政学図書目録刊行会